

新しいラストワンマイル配送の仕組み「オープン型ラストワンマイル配送プラットフォーム」を東急線沿線にて開始
～プロロジス、ウィルポートと協業し、地域での効率的な配送網を確立、物流業界の抱える課題解決に貢献～

東急株式会社

当社は、物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(日本本社)、(以下、「プロロジス」)、および共同配送管理システムと物流サービスを提供するウィルポート株式会社(以下、「ウィルポート」)と協業し、「オープン型ラストワンマイル配送プラットフォーム」(以下、「本サービス」)を構築し、東急線沿線エリアにおいて2022年2月1日から本運用を開始します。

近年、ECの急伸とともに、物流業界全体でのドライバー不足、ドライバーの長時間労働が社会問題化しており、コロナ禍以降は、その傾向がより一層顕著となっています。また、トラックドライバーの時間外労働への上限規制が厳格化する「2024年問題」を見据え物流工程の見直しが行われる一方で、配送の担い手不足によるさらなる配送遅延や配送コスト増大も危惧されています。

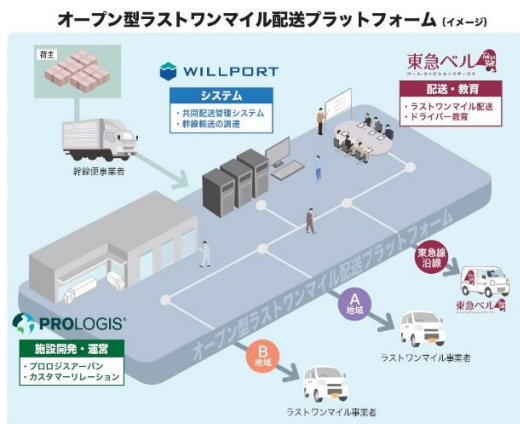
本サービスは、プロロジスがラストワンマイル拠点(以下、「配送拠点」)の整備・運営ノウハウを提供し、ウィルポートが「共同配送管理システム(以下、「TMS」)」を開発・提供、当社が既存配送拠点および「東急ベル」の配送スタッフ(以下、「ベルキャスト」)による配送を提供するものです。

本サービスで利用するTMSは、ドライバーの空き状況確認や配車に加えて、ドライバーの技能、研修履歴、車両整備状況などを一元管理するクラウドシステムで、各ドライバーの配送状況をリアルタイムに把握し、配送技術を評価(配送品質の見える化)することで、適切かつタイムリーな配車と、配送品質の向上が可能となっています。同システムを活用し、将来的には「自宅向け配送混載モデル」によって、ラストワンマイル圏における配送効率の向上を目指します。

なお、ベルキャストは交通安全教育の徹底や高品質な接客研修など東急ベル独自の研修を受講し、認定を受けた者だけが業務に従事しています。荷物をお届けする機会を、お客さまと玄関先で直接コミュニケーションが図れる重要な場面と捉え、確実に荷物をお届けすることはもちろん、お客さまからのお問合せ・ご要望を承り続けることで、「次もまた東急を」と感じていただけるよう丁寧な接客に取り組んでいます。

当社は、商品購入のチャネルの多様化、特にECの拡大に応じて、配送機能を強化するとともに、荷主企業の意向に応じた返品、試着など、多角的な配送付帯サービスを提供することで、東急線沿線の生活環境のさらなる向上を図ります。

今後、東急線沿線エリアでの実運用をモデルケースに、各地域の配送プロバイダと連携し本サービスを全国へ拡大していく予定です。3社は、協業することで、物流業界全体が抱えるドライバー不足などの課題を解決し、地域での効率的な配送網の確立を目指します。



本リリースに関する詳細は、別紙のとおりです。

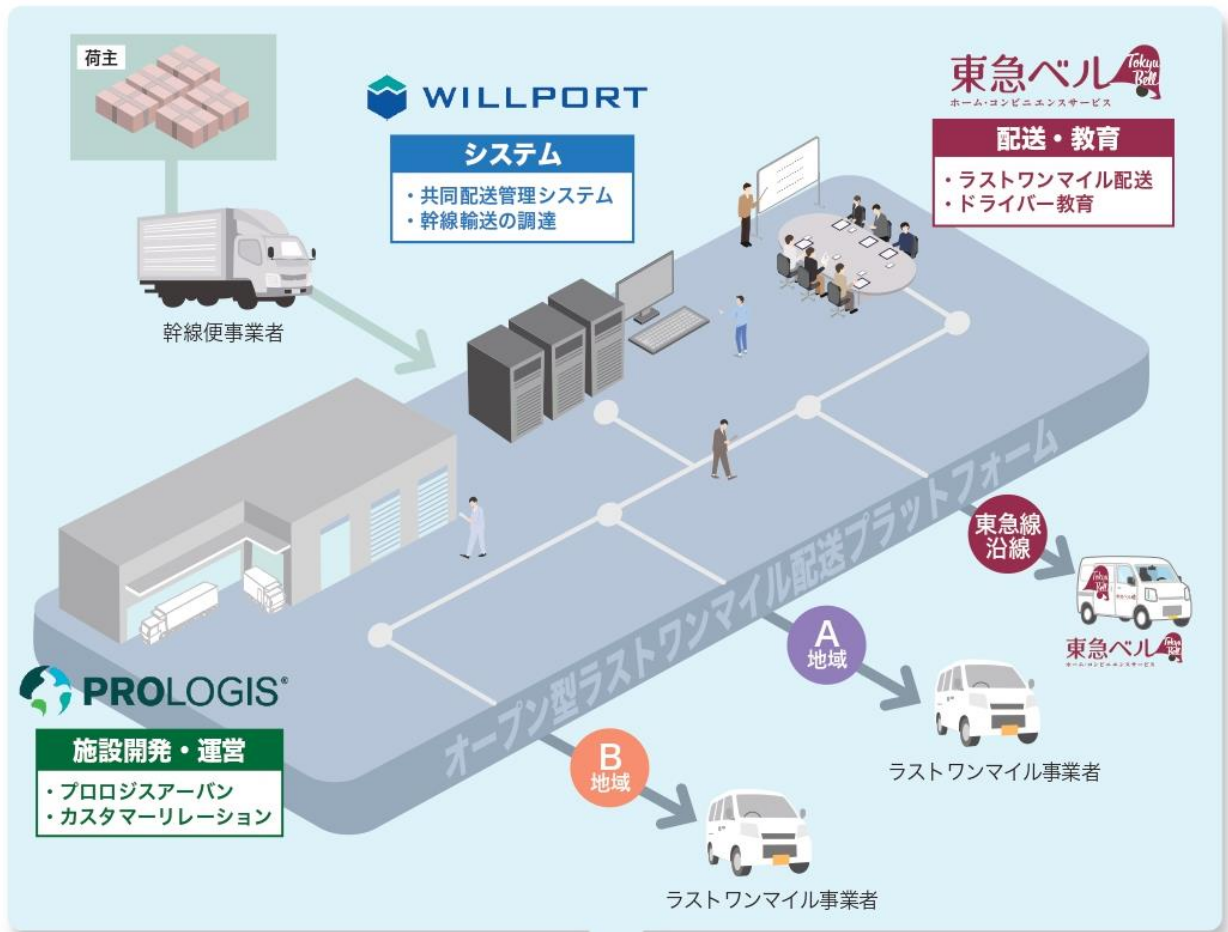
以上

【別紙】

■「オープン型ラストワンマイル配送プラットフォーム」とは

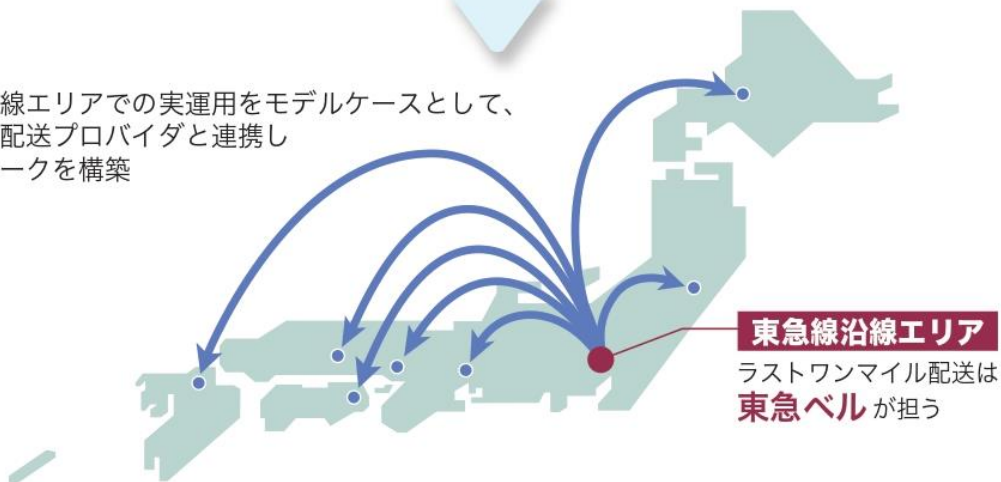
ラストワンマイル配送の需要拡大に対して、配送の担い手が不足している問題を解決する取り組みであり、ラストワンマイル拠点の整備・運営ノウハウの提供をプロロジスが行い、ウィルポートが開発・提供するTMSを利用し、配送拠点は、東急の既存拠点を活用するほか、「東急ベル」のベルキャストが配送を担うという一連のサービスをパッケージ化するものです。

「オープン型ラストワンマイル配送プラットフォーム」のイメージ



全国へ水平展開

東急線沿線エリアでの実運用をモデルケースとして、各地域の配送プロバイダと連携しネットワークを構築



■東急線沿線エリアのラストワンマイル配送のイメージ

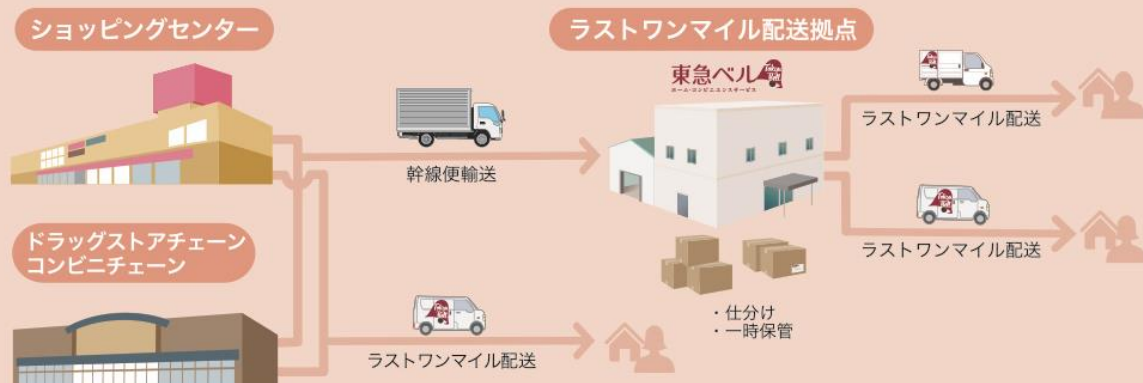
ラストワンマイル配送では、TMSを使った3つの配送パターンになります。

- ① 「センター出荷型配送」: 荷主の倉庫から配送拠点に届いた荷物を仕分けし、ラストワンマイル配送を行う
- ② 「リアル店舗出荷型配送」: 荷主の店舗にある荷物を東急ベルがラストワンマイル配送を行う
- ③ 「シェアリング型配送」: 買い物代行などの配送を行う

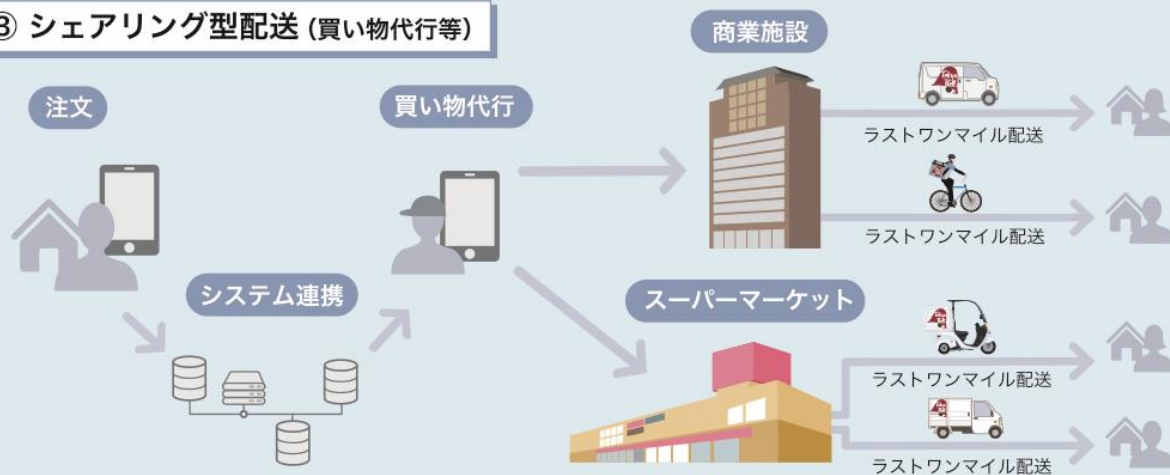
① センター出荷型配送



② リアル店舗出荷型配送



③ シェアリング型配送 (買い物代行等)



■本運用に先駆けた取り組みについて

東急ベルは、東急線沿線エリアでの運用開始に先駆けて、既にウィルポートのTMSを利用し、渋谷区・港区などで大手アパレル企業の店舗・倉庫から自宅への配送を実施し、配送品質について荷主企業、利用者双方のお客さまより評価いただきました。

■「2024年問題」とは

2019年4月に施行された働き方改革関連法により、2024年4月1日からトラックドライバーに対して時間外労働の上限規制が適用されることによって生じる諸問題。

■「共同配送管理システム(TMS:Transport Management System)」とは

TMSとは、一般的に荷物が物流センターから出荷された後、お届け先までの輸配送をトータルに管理する情報ツールのことで、配車計画や運行管理を支援するシステムを中心に構成されています。本サービスで利用するTMSは、一般的なTMSに加え、ドライバーの技能、研修履歴、車両整備状況などを一元管理するクラウドシステムで、各ドライバーの配送状況をリアルタイムに把握し、配送技術を評価(配送品質の見える化)することで、適切かつタイムリーな配車と、配送品質の向上が可能となっています。

※TMS画面イメージ(ドライバーの研修履歴などを一元管理)



■「個宅向け配送混載モデル(狭小圏共同配送サービス)」とは

ラストワンマイル配送エリアを定義し、そこに存在するEC事業者の荷物や小売り・サービス店舗の宅配業務、買い物代行などさまざまな荷主の荷物を混載・一元管理することで、ラストワンマイル配送の物流コストを適正化し効率化するモデルです。

■東急ベル配送エリア

配送エリア:東急線沿線を中心とした22市区(東京都・神奈川県)

既存配送拠点:目黒区碑文谷・川崎市宮前区



【参考】

■ホーム・コンビニエンスサービス「東急ベル」について

東急ベルは、2012年より東急線沿線を中心に「ホーム・コンビニエンスサービス」を展開しています。「東急ストアネットスーパー」や、東急ストアの各店舗で購入された商品をご自宅までお届けする「東急ストア当日お届けサービス」を中心として、東急ベルのスタッフ(ベルキャスト)が日々の生活に必要な生鮮食品などをお客さまの自宅までお届けし、東急線沿線住民のみならずの信頼関係を深める“ラストワンマイル”機能(店舗などから各ご家庭へ荷物を届ける手段)を担っています。また、お客さまの暮らしをより便利で快適にするため、あらゆるお困りごとを解決する「家ナカ」サービスを展開し、ハウスクリーニングや家事代行、シニア層向けのシニア付き添いサービスなど、約70種類のサービスを提供しています。(HP: www.tokyu-bell.jp)



■プロロジスについて

プロロジス(日本本社: 東京都千代田区丸の内、代表取締役社長: 山田 御酒、世界本社: 米カリフォルニア州サンフランシスコ、NYSE: PLD)は、物流不動産のリーディング・グローバル企業として世界19カ国で事業を展開しています。2021年9月末時点で、計約9,235万㎡の物流施設を所有・運営・開発し、3PL、物流、小売、ECなど、約5,500社のカスタマーに最新鋭の物流施設をご利用いただいています。

日本国内ではこれまでに107棟、総延床面積約748万㎡の物流施設を新規開発し(開発中を含む)、現在71棟、総延床面積として約552万㎡の物流施設を運営および開発中です。また、約40万㎡の物流施設の開発用地を所有しています。今後もお客様へのよりよいサービスと、環境に配慮したサステナブルな、物流の効率化に貢献するための最新の物流施設を世界各地で展開します。(HP: www.prologis.co.jp)



■ウィルポート株式会社について

ラストワンマイル物流事業のパイオニアであるウィルポートは、地域小売事業者やサービス事業者の狭小圏内物流を共同配送できるサービスを沖縄から札幌までの主要都市にてネットワーク化の実績をもとに展開しています。主な事業として自社ブランドの「ブラウニー」をはじめ、複数のラストワンマイルブランドを立ち上げています。

小売り・サービス店舗からの「お届けサービス」をはじめネットスーパーのピック・パック・配送の請負業務や来年からは独自の仕組みで「買い物代行サービス」「お手伝いサービス」「出張店舗サービス」を新たに導入し、生活支援物流をパッケージとして提供できる物流事業者として、さらに、「オープン型ラストワンマイル配送プラットフォーム」を通じて多くのラストワンマイル事業者に地域物流ソリューションを含めた荷主と物流事業者の「責任配車」ベースの事業を提供します。

(HP: <https://www.willport.co.jp/>)

以上